



〔海の状況 (2/16~3/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通して平年よりかなり高め (平年差 1.0~1.5 °C) からはなはだ高め (平年差 1.5 °C~) で推移した。(図1)  
※平年は、神子地先の過去30年平均
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通して平年並み (平年差±0.5 °C) で推移した。(図2)

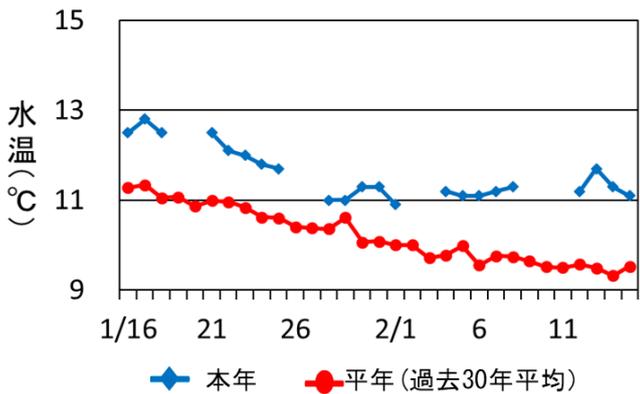


図1. 若狭町小川地先における表面水温の推移

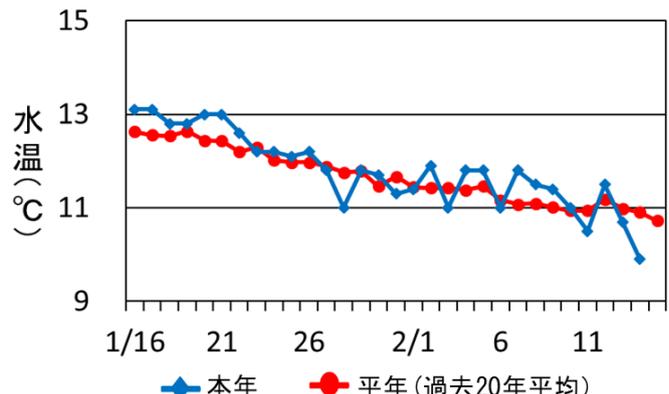


図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況:2月〕

2月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(0 m)、水深50 mおよび水深100 mでは、若狭湾から富山湾まで、12~14 °Cと前年より高くなっていた。(図3)

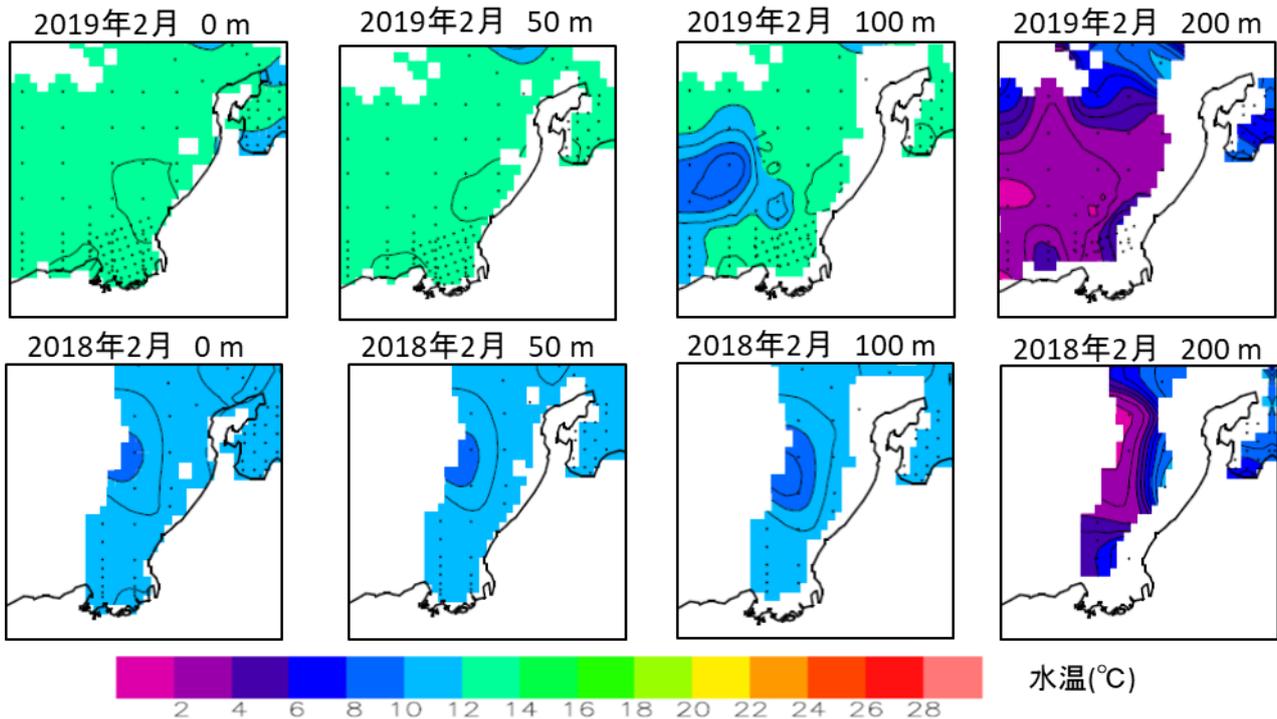


図3. 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

## 福井県の漁模様

福井県の年間漁獲量が、2017年は9,978 t、2018年は9,992 tと2年連続で10,000 tを下回りました。過去10年で漁獲量が多い魚種は、アジ類、ブリ類、サワラ、アカガレイ、スルメイカですが、2018年はサワラ以外の魚種が過去10年平均を下回りました。

2019年の1～2月合計漁獲量は960 tで、同期間でみると2017年から3年連続で1,000 tを下回り、今年の漁獲量も今のところ少ない状況です。

昨年には漁業法が改正され、今後は新たな資源管理が実施されていきます。これからも持続的に水産資源を利用できるように、水産試験場としての的確な資源動向の把握に努めていきたいと思っております。

(漁場環境グループ 山下 慎也)

### 〔県内の漁模様：2月〕

2019年2月の県内の総漁獲量は529 tで、昨年同月と比べて35 t上回った。

#### 〔定置網〕

漁獲量は45 tで、昨年同月と比べて7 t上回った。マグロ類、ブリ、ヤリイカ等は上回り、ツバス、サワラ、スズキ等は下回った。

#### 〔底びき網〕

漁獲量は406 tで、昨年同月並みであった。その他カレイ、ハタハタ、その他エビ等は上回り、アカガレイ、水ガニは下回った。

#### 〔釣り・その他〕

漁獲量は78 tで、昨年同月と比べて25 t上回った。ツバス、ヤリイカ、タコ類等は上回り、その他カレイは下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(2月)

定置網 (kg)						底びき網の続き					
魚種名	2019年	2018年	平年	前年差	平年差	魚種名	2019年	2018年	平年	前年差	平年差
マイワシ	102	692	72	-590	31	メバル類	481	398	378	83	103
カタクチイワシ	2,175	241	117	1,935	2,059	キス類	1,309	504	696	805	612
アジ類	2,648	2,226	10,160	422	-7,512	ヤリイカ	542	91	270	451	272
サバ類	1,181	50	1,256	1,130	-76	タコ類	4,742	2,733	4,360	2,008	382
マグロ類	4,387	139	1,409	4,248	2,978	ズワイガニ〔オス〕	39,767	39,304	36,972	463	2,795
ブリ銘柄計	4,188	2,406	4,963	1,782	-775	水ガニ	27,062	43,827	48,973	-16,765	-21,911
(ブリ)	3,992	1,183	423	2,809	3,569	アカエビ	2,616	1,779	6,734	836	-4,119
(ワサ)	51	360	260	-309	-210	その他エビ	7,901	3,833	5,439	4,068	2,462
(ハマチ)	5	12	598	-7	-593	その他	30,887	28,761	27,093	2,126	3,794
(ツバス)	140	852	3,682	-711	-3,542	合 計	406,283	402,859	459,008	3,424	-52,726
(アオコ)	0	0	0	0	0						
ヒラマサ	366	10	202	356	163	釣り、延縄、さし網、その他の漁法					
サワラ	10,484	15,740	33,160	-5,256	-22,676	魚種名	2019年	2018年	平年	前年差	平年差
スズキ	3,204	6,436	3,976	-3,233	-773	(ツバス)	2,425	0	3,192	2,425	-767
ヒラメ	361	235	261	126	100	サワラ	1,252	340	2,022	911	-770
フグ類	481	547	751	-66	-270	マダイ	477	477	1,179	1	-701
ヤリイカ	10,772	2,019	4,229	8,752	6,543	キダイ	2,574	1,498	2,026	1,076	548
その他	4,677	7,240	7,335	-2,562	-2,658	アマダイ	2,855	1,982	2,962	873	-107
合 計	45,027	37,981	67,893	7,045	-22,867	スズキ	828	178	580	651	249
						ヒラメ	1,093	1,178	1,965	-85	-872
						その他カレイ	1,987	4,589	6,571	-2,602	-4,584
底びき網						フグ類	351	174	69	177	282
魚種名	2019年	2018年	平年	前年差	平年差	メバル類	4,049	3,203	4,743	846	-694
マダイ	679	569	444	110	235	ヤリイカ	4,494	463	2,872	4,031	1,622
キダイ	948	504	499	444	449	タコ類	6,489	3,290	6,051	3,199	438
スズキ	501	321	1,090	180	-589	その他	48,941	35,664	51,928	13,277	-2,987
ヒラメ	2,994	1,415	2,212	1,579	782	合 計	77,815	53,035	86,158	24,780	-8,343
アカガレイ	171,235	222,995	234,805	-51,760	-63,570	全漁法					
その他カレイ	30,473	20,010	24,251	10,464	6,222	魚種名	2019年	2018年	平年	前年差	平年差
フグ類	583	617	162	-33	421	合 計	529,124	493,875	613,060	35,249	-83,935
アナコ	525	612	1,527	-87	-1,001						
ハタハタ	83,038	34,586	63,103	48,452	19,935						

※1 平年の値は2009～2018年の10年平均です。 ※2 ( )はブリの銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3ズワイガニはオス・メス・水ガニに分けて集計しています。 ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

### 〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：2月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：2月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：2月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：2月中旬～3月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…カタクチイワシ16.5 t、ブリ5.5 t、スルメイカ5.4 t、マイワシ1.3 t、マアジ1.0 t、サバ類0.7 t

京都府…定置網…カタクチイワシ15.0 t、ブリ2.4 t、サワラ類2.2 t、サバ類1.1 t、ヤリイカ0.5 t、マアジ0.2 t

兵庫県…定置網…マアジ482 kg、ブリ95 kg、ヤリイカ68 kg、マイワシ26 kg、サワラ5 kg

鳥取県…まき網…マサバ33.9 t、マアジ18.0 t、ブリ類3.7 t、ウルメイワシ3.0 t、マイワシ2.4 t

(漁場環境グループ 山下 慎也)

# 対馬暖流と急潮のお話

県内沿岸では急潮と呼ばれる漁具を損壊させてしまう強い流れがしばしば発生します。この急潮の発生原因の代表選手は台風ですが、台風さえ警戒していれば良いというわけではなく、台風によらない急潮が嶺北地方を中心に発生しています。

例年、水産試験場では、漁業者のご協力を得て県内の主要な定置網の近傍に観測機器を設置し、流況観測を行っています。これら流況観測のデータ等を見ることにより、台風によらない急潮の発生機構が見えてきました。それが日本海を流れる対馬暖流の接岸現象です。通常、対馬暖流は若狭湾沖を流れていますが、岸方向へと接近することで、県内沿岸には年によって2つの型の急潮が発生します。

その一つの型が、越前岬より北側の海域で発生する、北東に向かう強い流れです。対馬暖流が岸近くまで接近すると、その流れが鷹巣沿岸に打ち当たります(図1)。この型の急潮は台風によらない急潮とは異なり、強い流れが長期間、長い時で1ヵ月もの間持続するのが特徴です。このことから、鷹巣沿岸は県内で最も急潮が多い海域となっています。昨今の鷹巣の流況観測(深度10m)の結果を以下に示します(図2)。

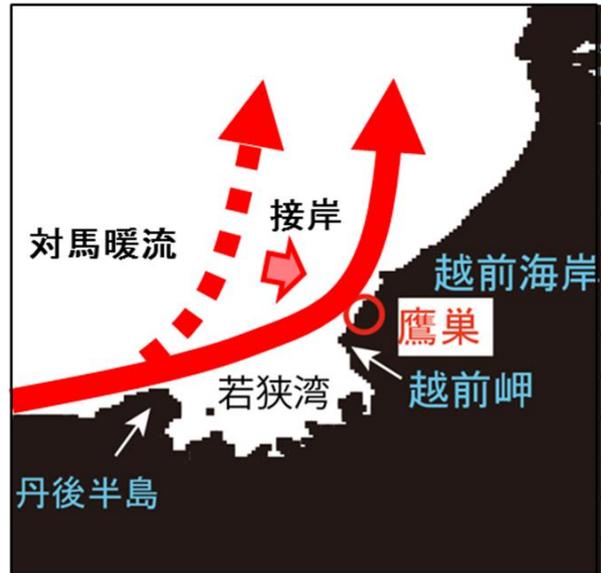


図1 越前岬以北の急潮発生機構

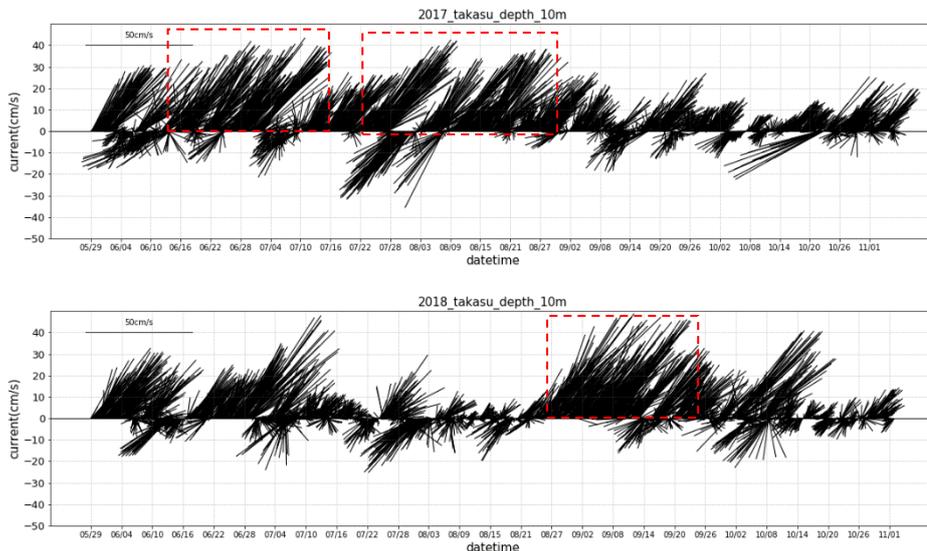


図2 鷹巣海域の水深10mにおける流向流速観測結果

上図：2017年 下図：2018年

図2の棒の長さが流れの速さ、棒の傾きが流れの向きを表しており、一般的に1ノット(約50cm/s)を超えると強い流れといえます。2017年は強い流れが6月の段階で出現し始め、7~8月と断続的に続きました。

一方、2018 年は 6 月末に短期的な強い流れが見られたもののすぐに収束し、7～8 月は比較的流れの穏やかな日々が続いていました。しかし 8 月末になると強い流れが発生し始め、9 月半ばまで継続しており、前年とは対照的な結果となりました。

もう一つの型が、越前岬より南側の海域で発生する強い環流によるものです。対馬暖流が接岸して丹後半島の先端をかすめると、時計回りの渦が発生します。これが環流の種となります。この種は時折、次第に規模を拡大しながら東進し、越前町沿岸に打ち当たり、南東に向かう強い流れを発生させます（図 3）。昨今の小樟の流況観測（深度 10m）の結果を以下に示します（図 4）。

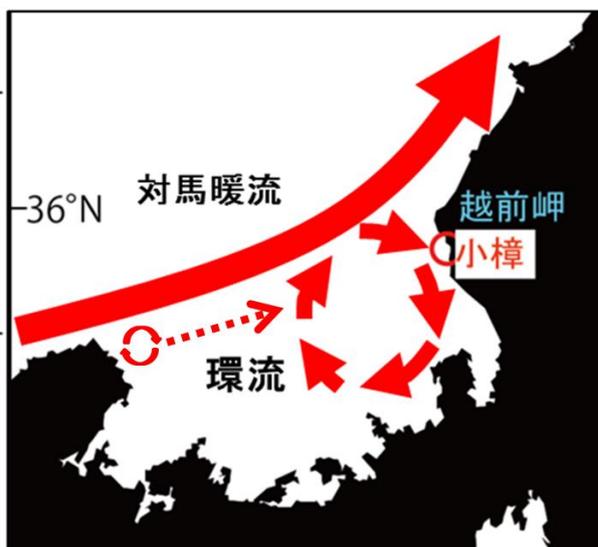


図 3 越前岬以南の急潮発生機構

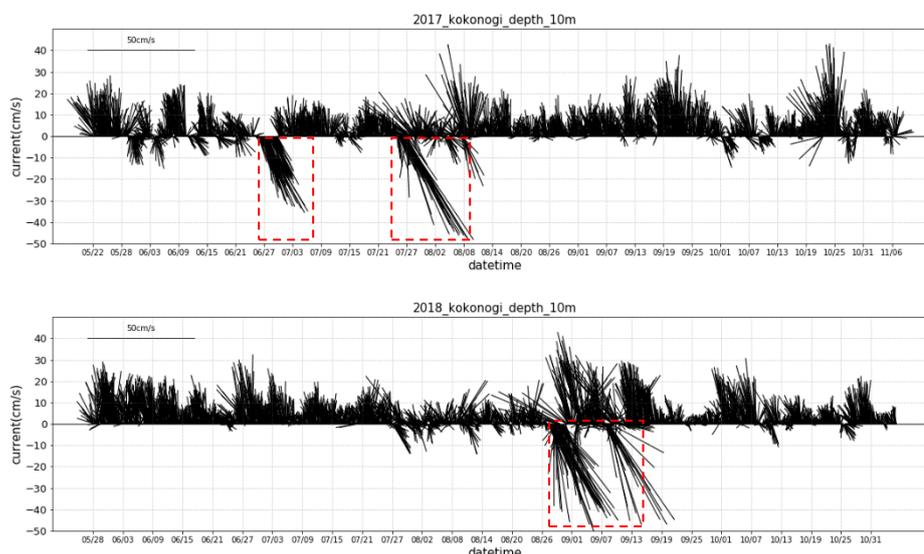


図 4 小樟海域の水深 10m における流向流速観測結果

上図：2017 年 下図：2018 年

図 4 をみてみますと、2017 年は 7 月末に、2018 年は 9 月初旬に強い環流が発生した形跡が見られます。対馬暖流の年ごとの接岸時期の違いがこちらにも反映されていました。

対馬暖流は分岐や集合を複雑に繰り返しており、接岸の時期や岸からの距離を早い段階から予想することは容易ではありません。水産試験場では今後も定置網近傍の観測の他、調査船による観測やリアルタイムブイによる観測を行い、対馬暖流の動向予測の精度を高める調査を進めていきます。

また、急潮被害対策のため、県内で発生した急潮被害情報を収集しています。被害が発生した場合は、水産試験場までご一報頂きますようよろしくお願い致します。

(漁場環境グループ 桂田 慶裕)